

予算額

5,025,286 円

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 「未就学児・保護者対象運動教室」子育てサロン交流「運動公園で遊ぼう！」				
	趣旨・目的	子育て中のお母さんとお子さん達を対象に、先輩お母さんスタッフ達と、屋外で体を動かすことを通じ、他世代交流を図る。				
	内容	自己紹介、どんぐり拾い(公園散策)、芝生で走って新聞の壁破り、陸上競技上を親子でランニング。				
	対象者	子育て中のお母さんと子ども達	参加人数	21名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 子育てサークル活動がいつも同じ場所であるため、地域の施設紹介を含め自然の中の遊びを提供した。先輩お母さんスタッフの方との交流を深め地域とのかかわりの距離を縮め地域交流のパイプをつくるきっかけづくりをした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 普段利用した事がない運動公園での交流が、親子共々新鮮さが感じられていた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然あふれる地元を見つめるため、回数を増やしシリーズ化したかったが一回しかできず担当者をつけることができなかった。(人材不足) 専門的なリーダーを配置するコーディネーターまでできなかった。 					

2	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 「未就学児・保護者対象運動教室」子育てサロン交流「老人会さんと遊ぼう！」				
	趣旨・目的	子育て中のお母さんとお子さん達を対象に、地域の老人会の方々とふれあい、他世代交流をはかる。				
	内容	自己紹介、みわゆったり体操(介護予防ラジオ体操)、大きな布遊び、障害物レース、昔遊び(おしくらまんじゅう・お手玉)、しっぽ取り。				
	対象者	子育て中のお母さんと子どもたち	参加人数	55名	実施回数	2回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいを深めるために各種目の補助を老人会の方々に協力をしてもらった。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にとっては、高齢者の経験と知恵を知り、触れ合う機会となり、この新しい出会いが、人への思いやりや接し方を肌で感じるきっかけともなる交流ができた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 主に子供たちの為の運動メニューとなり、老人会の方に対しての運動種目が少なくなりました。 					

3	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 「未就学児・保護者対象運動教室」子育てサロン交流「リズムステップ」				
	趣旨・目的	親子一緒にリズムを合わせて体を動かし、普段と少し違った形で相互のコミュニケーションをはかる。				
	内容	ディズニーのダンス曲に合わせてのエアロビックダンス(ストレッチ・ステップ・ウォーキング・ランニング・筋カトレーニング)				
	対象者	子育て中のお母さんとお子さん達	参加人数	57名	実施回数	2回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちも聞きなれた曲を使用して自然とリズムがとれるようにおこなった。スペースもフリーにし、運動レベルを上げず軽度を持続し、いつでも入れるように心がけた。 子育て支援センターの職員にも見守りで居てもらい、何かの対応ができるようにした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> お母さんが楽しく動いていたことに連鎖して、お子さんの半数は自然と一緒に体を動かしていたのが印象的だった。 子育て中のお母さんには一時的な気分転換のひとつになった。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> レベルをあまり上げなかったため、各個人レベルの満足度には差があったに思う。 					

4	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 「就園児・保護者対象運動教室」みんなで運動”				
	趣旨・目的	親子のコミュニケーションのきっかけを図る。				
	内容	大人45分トレーニングルームへ。子ども45分幼児体操。後半15分は親子体操。				
	対象者	子育て中のお母さんと子ども達	参加人数	59名	実施回数	2回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 最初は親子別で後半は合同で親子一緒に取り組んだカラダづくりを体感してもらった。1時間を共有したことで家庭でもカラダづくりにつながるよう説明をした。 子育て中のお母さんには一時的な気分転換のひとつになった。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 大人は普段の運動不足を自覚され運動習慣の重要性を改めて認識する機会だった。 年中は年長の教室と同じ内容で実施。効果等は同じだが、年中クラスが親子交流にうえていたと思うくらいスキンシップを楽しんでいた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が固定化していた。この年代の運動率をどのように地元であげるか、考えていべきだと感じた。 					

5	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 「三次駅伝にトライ！」				
	趣旨・目的	三和町から広く参加者を募り、駅伝チームを結成し、同じ目的で集まった仲間同士で駅伝大会を通して、新しい交流のきっかけづくりをする。				
	内容	他世代駅伝				
	対象者	一般成人	参加人数	9名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 多世代を取り込むよう、学校保護者へ協力、クラブ関係者や会員の声かけを行った。町内放送やクラブ通信を使い広報周知をはかった。 日常、接点がない世代のよい機会となった。 最後まで「たすきを渡す」という目的を怪我なく無事に達成できた。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 参加チームを増やすよう努力が必要かと思う 				

	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 「マツダ女子バレーチームに教そろう！」				
	趣旨・目的	全国レベルで活躍するトップアスリートによる実技指導を受け、参加者の技能とメンタル面の向上を図る。				
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 大人と小学生に分かれて実技指導を受け、実践を通してトップアスリートと交流。 マツダ女子バレーチームのデモンストレーションを見学 				
	対象者	小学1年生～一般成人	参加人数	100名	実施回数	1回
6	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> トップアスリートのプレイを実体験することが少ない地域柄を考慮し、市内全域に広く周知し、参加募集をした。 三次市全体のバレーボールスポーツ少年団に周知・案内を行った。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 普段トップアスリートのプレイを実体験する機会が少ないプレイヤーにとって、実践を通してたくさんの事を吸収し、学べる素晴らしいイベントとなった。 町外からも多くの参加(他町のスポーツ少年団)申込が早くからあったこと、イベント終了後のアンケートでは、「同様のイベントがあればまた参加したい」との回答が100%であったことから、同様のイベントを企画・開催することは、子どもの育成や地域活性化に大変意義ある事だと実感した。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域外のスポーツ少年団が多く集うこのような機会に、お互いが深く交流する時間を設定することが次回への課題となった。 				

	取組の名称	他世代親子交流と日常の体作り啓発 ウインタースポーツ交流「スキー&スノーボードツアー」				
	趣旨・目的	<p>経験の有無、世代にかかわらず、この地域ならではの冬のスポーツを楽しんでもらう。</p> <p>長年継続実施している、小・中学生対象の「みわ町スキー教室」と日を同じくすることで大人と子どもの多くの世代間交流をしてもらう。</p>				
	内容	周辺地域の対象年齢者で小さい頃やってみたかったけれど機会が無かった方に対してスキー又はスノーボードを気軽に体験してもらう。				
	対象者	高校生～一般成人	参加人数	20名	実施回数	1回
7	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 長年継続実施している、小・中学生対象の「みわ町スキー教室」と日を同じくし、往復を共にすることで広く、多くの交流をしてもらうようにした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> スノーボード初心者にインストラクターの指導を受けてもらうことで、上達し、楽しんでもらえた。 狙いどおり、小・中学生との交流もできた。 				

8	取組の名称	スポーツに関するアンケート実施				
	趣旨・目的	スポーツに関する意識調査・現状を把握し、問題点を洗い出すことにより、今後の事業計画の基礎資料とする。				
	内容	アンケート調査				
	対象者	三和町全域	参加人数	936名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 地域の有識者構成の委員の視野からこの取り組みを理解してもらいながら、助言や案をもらいアンケート内容を作成した。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 対象の約3割からという予想を大きく上回る回収数となった。町民のスポーツに対する関心の高さが伺えた。また、意見・要望も数多く寄せられた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 回答結果の詳細な分析を実施し、スポーツを通じた健康で心豊かな地域づくりに役立てていきたい。 					

9	取組の名称	講演会の開催				
	趣旨・目的	様々な課題を抱えた子ども達(落ち着きがない。乱暴・姿勢が悪い・手先が不器用など)が増えている中で、その様々な課題を理解し、日々の職場でプロとしてどのように接していくか、感覚統合の観点も含めての講義。				
	内容	演題「子どもの体を知ろう！～健やかな育ちを応援するために～」				
	対象者	日常的な子どもに関わる専門職の方々	参加人数	50名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 講演の中で講師が参加者(職場の専門職)に対して、その都度会話形式で進められ、その場で問題解決していく雰囲気、参加者の意識向上を心がけてくださった。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 通常、数日間かけて学ぶ内容を数時間に要約してお話いただくことができ、平素忙しく時間の割けない方々にとっては、かけがえのないチャンスを提供できた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 内容が大変濃いものであるため、一度の学びでは難しく、継続して先生の講演を希望する声も聞かれた。 					

10	取組の名称	講演会の開催				
	趣旨・目的	地域の各団体に対して今後、次世代に、よりよりスポーツ環境をどのように整え残していったら良いか考える機会を与えたい。				
	内容	一部は主催者クラブ活動を3団体紹介(発表)二部はクラブを含め他2団体の発表で、後にスポーツと健康づくりを接点として地元を見つめ直すシンポジウムを行った。				
	対象者	クラブ会員・地域住民	参加人数	113名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> どの団体も地域の方が主役での活動となるため、後に協働しあい地元を元気な町に近づけられるよう意見を募った。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ローカルシンポジウムとして開催。題材は「生涯スポーツについて」とし、普段接点のない団体に発表して出てもらった。それぞれの立場で、生涯スポーツを語ってもらい、地域参加者からはいろんな意見、または交流ができたように思う。これをきっかけに、生涯スポーツの役割が好循環を及ぼすことを地域の方に少し理解してもらえたと思う。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	1 校
コーディネーター総数	2 名

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 学校にあるものをふんだんに活用し、いろんな角度から物を使ったり表現したりという取組を重視したため興味を抱く生徒が増えた。
- ・ コーディネーターとの距離をなくすため長い休憩時間も一緒に過ごし体力づくりにつながったコミュニケーションを図った。体育授業だけでなく広く子どもたちを受け入れる事で自然と運動イメージを普段の動作につなげる事が出来た。
- ・ 生徒の成果も充分あったが、先生方にも良い刺激にもなったようで、指導の幅が広がったように感じる。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 児童の動きをみて、専門的なアドバイスをすることで、児童も喜んで楽しく活動でき、意欲が高まった。
- ・ 基本の動きにつき多様な運動をさせながら、スモールステップで指導することで、児童の運動技能も高まってきている。
- ・ コーディネーターが本時のねらいに沿った準備運動やエクササイズを用意することで、教師が運動能力を高める手だてを学ぶことができた。
- ・ 事前に授業の準備ができたため、授業中の運動量が増えた。
- ・ 児童の日記に、体育の授業を楽しみにしている・頑張っているという記述が増えている。
- ・ 保護者アンケートで「学校は体力づくりに積極的に取り組んでいる」という設問への肯定的な評価が76%(7月)から91%(12月)と増えた。
- ・ 業間運動(マラソン・なわとび・ラジオ体操)でも一緒に指導・評価をすることで、児童の体力づくりへの意欲が高まった。

〔課題〕

- ・ 中学校との連絡を密にし、情報を共有することで小・中学校が一貫した指導体制を構築することができると思うので、この取り組みを提案したい。
- ・ 先生方が短い休憩時間内でコート、ラインを引くことは至難の業であり、マーカーを使用したり、ポイントを打つなど、工夫が必要である。
- ・ ボール系運動で使用される用具(ボール・ネット・マーカー等)が不足していることで、指導内容が制約され、実働運動量も減るため、補充する必要がある。
- ・ 固定遊具の鉄棒が錆びていたり、夜露で濡れていることが多々あるので、定期的に安全確認し、児童が適切な環境の中で、のびのびと運動ができるよう努める必要がある。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 今回の委託事業で定期会議を開催するきっかけができ、地域の他団体、事業所と連携でき会議内で様々な知見を得たり、協力体制を得ることができ、心強かった。町全体の取組というイメージができ、少しずつ地域の信頼を得つつある。
- ・ 小学校での体育授業の支援は、小学校で大変感謝された。初めて地域が授業へ介入したことで、学校授業の現場の大変さが実感できた。過疎地だからこそ、仲間と集える時間帯の学校体育授業を充実させるべきで、総合型地域スポーツクラブとしての使命として必要性がひじょうに高い取組だということが認識できたことは大きな収穫であった。
- ・ 地域課題に取り組むことでクラブ自身が地域を改めて見直すきっかけとなったことで、新たな課題を発見し、目標を設定することができた。

〔課題〕

- ・ 地域の理解は少しずつ得ることが出来てきたものの、自治体(教育委員会)の理解に至らないことが悲しい現状である。自治体の理解をどのようにすれば得られるのかよくわからない。住民主導型と言えど、訴求力不足のジレンマの塊の状況から抜け出せるよう、地域特性をより一層理解し、今以上に地域活性化につながる取組を他団体を協力しながら実施できるようにクラブ母体を底上げしていく必要がある。